

……「紅の旗」創立110周年記念誌 ” 思い出の記 ” 〈ああ、我らが青春の日々よ〉 より……

## 思い出することなど

中43回卒 植松 達也<sup>(※1)</sup>

私が相馬中学に在学したのは、昭和15年(1940)から20年(1945)迄の5年間でしたが、勉強できたのは四年間でした。5年生の時は軍需工場で働きました。



当時は戦争中の戦時色の濃かった時代で、中学生の服装もカーキ色の軍服に似せたもので、足にゲートル(巻き脚絆)を巻き、背に背囊(ランドセル)を背負って通学しました。

そして胸ポケットに、軍人勅諭(ちよくゆ)や教育勅語(ちよくご)を収録した小冊子(8×9.5cm・48ページ)「大御心(おおみこころ)」を常に携帯することを義務づけられました。

学業の他に軍事教練、柔道、剣道、銃剣術、体操、体力検定などに力が注がれ、「青少年は国の人的資源」とされ、相馬中学校にも陸軍の現役将校が配属され常駐して生徒を軍隊式に指導しました。

修学旅行の代りに、磐梯山麓の陸軍演習場で軍事演習を体験させられたこともあります。

昭和19年に5年生になった時は、戦時下の労働力不足を補うための勤労動員で福島市の日東紡績の工場で働きました。

工場では、大きな溶鉱炉で石灰石を熔解噴射させて岩綿を製造する現場で正規従業員の指導を受けながら作業に従事しました。製品は軍艦の機関部のパイプを巻いて保温するのに使用されるということでした。

この工場で数ヶ月働いている間に、仙台で海軍兵学校の試験を受けて合格し9月に入学しましたが、戦況は厳しい状況にありました。当時は、国策に沿って軍関係の学校へ進学する人が多く、陸軍士官学校、海軍兵学校、海軍機関学校などに進んだ人が多かったのです。

航空機乗員養成の海軍飛行予科練習生(予科練)は、各学校に人数の割当がありました。予科練に応募した同級生の中に、戦線に出て国難に殉じて尊い命を捧げた人もおります。

手元に、軍関係入隊者の武運長久を相馬中村神社に祈願した時の記念撮影の写真が保存してあります。



▲軍入隊の同級生を送る 相馬中村神社

帰郷すると、わが国でも希有の長い歴史の相馬中村藩の居城であった中村城趾に鎮座の相馬中村神社と相馬神社に参詣することにしてありますが、相馬中学当時のさまざまな情景が思い起こされ感慨を新たにいたします。

そして、現在の平和な時代の有難さを強く感じます。

110年前の明治31年(1898)に福島県第四尋常中学校として創立された相馬中学校が、昭和23年(1948)の学制改革で相馬高等学校となりましたが、一世紀を越える長期間、地域の春秋に富む若者達の

青春の一時期の勉強の場となり、幾多の優れた人材を世に送り出して今日に至っておりますことを心から誇りに思うと共に、未来永劫にその歩みを続け、さらなる発展をされることを心から祈っております。

…… 略 ……

また、同窓のご縁で、今野源八郎<sup>(※2)</sup> 東京大学経済学部教授（後に名誉教授）、鈴木直人<sup>(※3)</sup> 衆議院議員、齋藤邦吉<sup>(※4)</sup> 厚生大臣はじめ多くの各界で活躍され名を成された方方にご交誼をいただくことができました。

誠に有難いことです。

京浜地区在住の同窓の人人の交流の場としての京浜馬城会の運営に尽力された故荒川利男<sup>(※5)</sup>さんと、その後継者として献身的にお世話してくださっている渡部行<sup>(※6)</sup>さん（元日本工業新聞論説委員）には、その行き届いたお心配りに常常深く感謝しております。

母校と同窓の方方のますますのご発展をお祈りいたします。

(※1) 昭和20(1945)年卒 磯部出身

(※2) 中22回 大正13(1924)年卒 八幡出身 第6代 馬城会長

(※3) 中17回 大正8(1919)年卒 磯部出身

(※4) 中25回 昭和2(1927)年卒 中村出身

(※5) 中26回 昭和3(1928)年卒 大野出身

(※6) 高1回 昭和24(1949)年卒 飯豊出身

(選択転記 村山)